

2014年(平成26年)9月7日 日曜日

©山陽新聞社 2014

日刊



9月7日
日曜日

発行所

山陽新聞社

岡山市北区柳町2-1-1

新聞製作センター

岡山市北区新屋敷町1-1-18

(1面)

なぜ、岡山なのか。東日本大震災から3年半。岡山への避難者は増え続け、復興庁の調べでは100人を超えて西日本で最も多い。そんな「岡山現象」を考える記録映像を見る機会があった▼「つむぎ合う、未来。」ポストフクシマの新しい生き方と社会像」(62分)。福島原発事故後の社会の在り方を研究する後藤範章・日本大教授が制作した。岡山、沖縄・石垣島、東京での追跡調査をまとめたものだ。先日、岡山市内であつた上映会には県内で活動する支援団体が参加した▼気候が温暖。災害が少ない。原発施設から遠い。交通アクセスが良い。後藤教授はそんな岡山の地理的条件に加え、震災後の早い段階で次々に立ち上がった市民団体の存在を挙げる▼フェイスブックやツイッターを駆使して情報を交換し、人と人を結ぶネットワークを構築した。今夏には県内10団体が連携し、相談窓口を一本化するワンストップ体制を整えている▼根っこにあるのは「緩いつながら」だ。一定の距離で付き合い、いざとなれば助け合う関係。ときに淡泊にもみえる岡山の県民性がうまく作用しているのかもしれない▼後藤教授が最も注目するのは、都会を脱出してきた人たちが地域と関わりを持ちながら生き生きと暮らしていることだ。未来の鍵を握る地域の価値と豊かさのヒントがそこにある。

2014.9.7

滴一滴

震災から3年半。岡山への避難者は増え続け、復興庁の調べでは100人を超えて西日本で最も多い。そんな「岡山現象」を考える記録映像を見る機会があった▼「つむぎ合う、未来。」ポストフクシマの新しい生き方と社会像」(62分)。福島原発事故後の社会の在り方を研究する後藤範章・日本大教授が制作した。岡山、沖縄・石垣島、東京での追跡調査をまとめたものだ。先日、岡山市内であつた上映会には県内で活動する支援団体が参加した▼気候が温暖。災害が少ない。原発施設から遠い。交通アクセスが良い。後藤教授はそんな岡山の地理的条件に加え、震災後の早い段階で次々に立ち上がった市民団体の存在を挙げる▼フェイスブックやツイッターを駆使して情報を交換し、人と人を結ぶネットワークを構築した。今夏には県内10団体が連携し、相談窓口を一本化するワンストップ体制を整えている▼根っこにあるのは「緩いつながら」だ。一定の距離で付き合い、いざとなれば助け合う関係。ときに淡泊にもみえる岡山の県民性がうまく作用しているのかもしれない▼後藤教授が最も注目するのは、都会を脱出してきた人たちが地域と関わりを持ちながら生き生きと暮らしていることだ。未来の鍵を握る地域の価値と豊かさのヒントがそこにある。



108選手 热く華麗に

第5回の節目を迎えた女子プロゴルフのステップ・アップ・ツアー「山陽新聞レディースカップ」（日本女子プロゴルフ協会主催、山陽新聞社共催）は20日、玉野市の東児が丘マリンヒルズGC（6289ヤード、パー72）で開幕。初日としては2年連続で同ツアー史上最多を更新する65人3人の観客が詰め掛け、熱く華麗な戦いに酔いしれた。（15、16、29、31面に関連記事）



リニア抑留

死者岡山637人、広島111人

今夏のプロテストに合格した新人
優秀賞受賞者（31面に

新・地域考 オピニオン

「地方への回帰」が進んでいる。都会から田舎に移住する人が増え、それぞれ大量生産、大量消費の生活から距離を置き、自然や人とのつながりを大切にするライフスタイルを確立しようとしている。定年後に田舎で悠々自適の人生をスタートさせる団塊の世代とは違った動きだ。

岡山県内でも東日本大震災を契機に移住・避難してきた子育て世代を中心につの傾向がうかがえる。

「地方回帰の底流には経済成長を追求し続けた戦後から『震災後』へのパラダイムシフト（思考の枠組みの転換）がある。

「地方への回帰」が進んでいる。都会から田舎に移住する人が増え、それぞれ大量生産、大量消費の生活から距離を置き、自然や人とのつながりを大切にするライフスタイルを確立しようとしている。定年後に田舎で悠々自適の人生をスタートさせる団塊の世代とは違った動きだ。

岡山や沖縄などでの聞き取り調査を基に「3・11」後の社会像を研究している日本大の後藤範章教授（57）＝都市社会学

＝はこう分析する。

復興庁によると、岡山への移住・避難者は千人を超える。岡山ではどんな変化が起きているのだろうか。震災後、ほどなくして岡山県和気町に移り住んだ夫妻を訪ねた。（秋山昌三）

「3・11」後のパラダイムシフト

豊かさ問い直す地方回帰

復興庁によると、岡山への移住・避難者は千人を超える。岡山ではどんな変化が起きているのだろうか。震災後、ほどなくして岡山県和気町に移り住んだ夫妻を訪ねた。（秋山昌三）

4面に続く

9月21日

日曜日

発行所

山陽新聞社

岡山市北区柳町2-1-1

新聞製作センター

岡山市北区新屋敷町1-1-18



エレクトロニクスで
社会に貢献する

ローム・ワコー株式会社

岡山県笠岡市富岡100番地

TEL.0865-67-0111

きょうの紙面

⑯ファジ痛恨分け

⑤地方経済

⑨文化

⑩⑪読書

⑬くらし

⑯⑯⑯⑯⑯スポーツ

⑯⑯ちまた、小説、

碁・将棋

子どもしんぶん

さんタイムズ

きょう本紙に
折り込み

毎週日曜発行

読者センター

紙面へのご意見などは

086-803-8000

購読お申し込み

0120-34-4301

山陽新聞デジタル

サポートデスク（日祝休）

086-803-8176

さん太のさん考書

新・地域考

「3・11」後のパラダイムシフト 豊かさ問い合わせ地方回帰

オピニオン

自然や人との絆求めて

岡山現象

人口減社会 生きるヒント



日本大・後藤範章教授に聞く

日本大の後藤範章教授は、移住者と地元住民が関わりを深めながら生き生きと暮らしている「岡山現象」が、人口減社会における地方の可能性を示すものだとする。その根拠は何か。インタビューした。

岡山の移住者には共通点がある。自分の身の安全を守りたい、安心して子育てしたいとの思いに加え、物質的な豊かさを追い求めるではなく、自然や家族、仲間とのつながりを大切にしている。なぜなら、日本の成長神話はもはや破綻したと考えているからだ。東

日本大震災や東京電力福島第1原発の事故はそれほどの衝撃だった。その結果として岡山では「ハイブリッド結合」とも言える現象が起きている。

「よそ者」である移住者と、地縁・血縁の結び付きが強い地元住民が敵対することなくほどよく交り合い、支え合うグループをつくっている。さらに交流サイトのフェイスブックやツイッターを活用し、その輪を全国にも広げている。

その背景には移住者たちの「越境

体験」がある。慣れ親しんだ生活空間を飛び出し、職業も文化も年齢も異なる人々と出会い、交流し、互いに支え合う。それぞれ自分の世界を広げ、グループ内で化学反応を起こしている。その積み重ねが多様なつながりを生み出しているのだ。

戦後、日本では「私の領域が重視されてきた。このため、社会との接点が少なくなった、自分の殻に閉じこもる傾向が強まっていた。

移住者の行動は「脱経済社会」の

方向性を示すものだ。自然の恵み、時間的、空間的なゆとり、地域の伝統文化などを買えない豊かさを

求めている。これは地方の可能性を広がりをみせている。地域の活性化にどれほど役割を果たすのか。動向を注目したい。

(聞き手・秋山昌三)

良い方向に作用

「緩いつながり」



「岡山現象」の社会的意義について議論した意見交換会=岡山市

「岡山現象」の社会的意義を考えよう、移住者の民間グループや学識者らが

話し合ふ意見交換会が8月
下旬、岡山市内であった。

日本大の後藤範章教授が

震災当日、信さんは東京都内の駅構内にいた。震度5強の揺れに

夜の10時には寝て日の出とともに起きる日々。いつも家族そろって朝、夕食を囲み、互いにその日にあったことを話し合う。山と田畑に囲まれ、四季折々に咲く花を眺め、虫の声に耳を澄ませる。地域の中にもうまく溶け込め、盆踊りなどの伝統行事に参加するのも楽しみの一つだ。

死がよぎる

東京から岡山・和気に移住 飯豊さん夫妻



ありがたい家族だんらん

いたくな都會の暮らしに警鐘を鳴らしているような気がした。どこか後ろめたい気になった」と信さんは振り返る。

「原発事故は便利で快適でぜひともぶつかるのを目の当たりにして一瞬、「死」が頭をよぎったと

裏われ、列車がレール脇の壁に何

度もぶつかるのを目の当たりにし

て、その日を境に生活は一変した。

度もぶつかるのを目の当たりにし

て、その日を境に生活は一変した。